

鎌倉の街を歩いてみると、不思議と心が落ち着いていくことに気づく。掲載した写真はほんの一部。街をゆっくりと散策するもよし、気に入った場所でゆっくりと過ごすもよしである

1 朝夷奈切通



真の国際化とは自分の国を知ること。  
東京から1時間ほどで行ける鎌倉。  
武家の古都で“変わらない”を体感しよう。

text by 渡辺幸裕 + photographs by 新聞雅士

東京からJR横須賀線に乗ると似たような都市風景がしばらく車窓に広がる。それが神奈川・大船を過ぎたあたりからがらりと変わる。目の前に現れるのは緑豊かな「武家の古都・鎌倉」である。

駅に降り立ち、鎌倉の路地を歩くと四季折々の花や草、多くの禅寺などが現れる。

鎌倉時代は禅宗など仏教が隆盛したことにも相まって、日本人の気質を大きく変えた歴史上重要な転機であった。源頼朝が公家文化にとっぴり浸かった京都から離れ、質実剛健な武家政権の本拠地として選んだ鎌倉にはどこか厳かな空気が漂う。そんな武の気風を感じさせる場所が数多くある街なのである。

都心から1時間ほどで行ける鎌倉。この街を日本を知る足がかりとできないものか、またビジネスに役立てられないものか。鎌倉市長の石渡徳一さんにお話を伺った。

石渡さんが鎌倉を歩くうえでぜひ注目してほしいと推薦するのは、鎌倉の路地だ。

北鎌倉の「其中寮」



2 浄妙寺



5 滑川



4 杉本寺



3 報国寺



7 鶴岡八幡宮



6 源頼朝の墓



ビジネスで外国人のお客様を招き、鎌倉に数多く点在する風光明媚な切通しや神社などの観光地巡りをするのももちろんいい。しかし、それとは一味違った鎌倉の息遣いを感じられる路地を歩いてみるのもまたいい。路地に身を置き、日頃の疲れを癒やし、明日への活力を蓄える。エネルギーチャージの場としても鎌倉の静けさと落ち着きは最適であろう。鎌倉の歴史や禅宗文化、武家政権などを事前学習すれば、街に対する興味もますますわいてくるはずだ。

さらに、もっと深く鎌倉に触れてみたいという人には座禅をお勧めしたい。東京の寺や自宅でも座禅は組める。しかし、自分の足で山門をくぐり、鎌倉の寺で組む座禅には特別な時間が流れる。この、鎌倉効果。をぜひ体験してもらいたいものである。

鎌倉は現在、世界遺産登録を目指し、街の保存活動に力を入れているという。都心では再開発が進み、街の様子は刻々と変化を続ける。そんな時代にあって、鎌倉は「変わらない」ことを選んだ。京都や奈良の雅な日本文化とは一味違う。そんな街を歩いてみると、日本人の根底にある武家文化を体験できるのではないだろうか。

8 街の路地

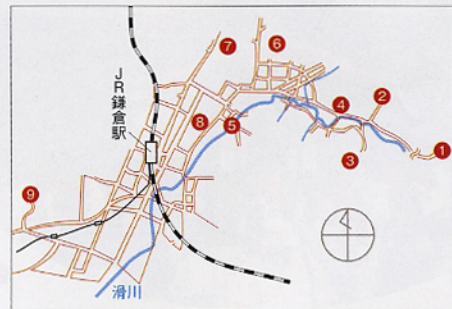


9 鎌倉文学館



鎌倉市長の石渡さんお薦めの路地。名所を訪れつつ、歩いてみてほしい。ただし、この景観は住民によって守られていることを忘れずに！たまには携帯電話の電源を切って、静かに散策するのもいいのではないだろうか

武家文化を味わえる 鎌倉マップ



Yukihiro Watanabe

ビジネス・コーディネーター。1950年生まれ。前職のサントリー宣伝部で、海外イベントを担当した時、自国文化についての知識のなさを痛感。2001年独立を機に日本文化超初心者会「和・倶楽部」を提唱、運営中。会のコンセプトは「日本人に生まれたことを喜びたい」。

鎌倉  
Kamakura



お話を伺った人  
石渡徳一さん  
鎌倉市長

鎌倉市観光課  
<http://guide.city.kamakura.kanagawa.jp/>  
『武家の古都・鎌倉』（世界遺産登録に向けた鎌倉の紹介ページ）  
<http://www.shonan-it.org/kamakura/>